

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3 単位	学年	1 年	コース	EAPL
使用教科書	啓林館『深進数学 I』			使用副教材等	啓林館『深進準拠問題集 定着演習編 Axis 数学 I + A』				

目標	数学 I の内容における数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能、数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけるようにする。また、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学 I の内容における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	数学 I の内容において、数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を備えている。	数学 I の内容における数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を備えている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査(80%) テキスト・プリント等の担当教員の指示する課題の提出状況(10%) 課題テスト(10%) 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査(80%) テキスト・プリント等の担当教員の指示する課題の提出状況(10%) 課題テスト(10%) 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りノート(80%) テキスト・プリント等の担当教員の指示する課題の提出状況(10%) 授業態度(10%)

担当者からのメッセージ	<p>新学習指導要領では上記3観点を基に評価を行います。評価の際には、定期考査はもちろんのこと、日々の課題への取り組み状況や未知の問題に対する粘り強い学習姿勢、常に自身の学習態度を改善しようとする姿勢が大きく関わってきます。授業を受ける際には、「教員の言葉や指導を傾聴し、常に学習態度の改善に励むこと」、「予習・復習等の家庭学習を継続的に行うこと」を大切に、学習に臨んでください。また、数学 I は2年次も引き続き履修しますので、使用する教科書やテキストは大切に取扱いください。</p>
-------------	---

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1	4	第1章 数と式 第1節 整式 1 多項式とその加法、減法 2 多項式の乗法 3 因数分解	第1節 整式 【知識・技能】 ・単項式や多項式、整式・同類項・次数について理解している。 ・整式の基本的な性質を理解し、加減法の計算、積の展開を行うことができる。 ・乗法公式や因数分解の公式などを用いて、式を目的に応じて変形することができる。 【思考・判断・表現】 ・整式を1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして、いろいろな式の見方をするすることができる。 ・整式の加法・減法、乗法公式や因数分解などについて、目的に応じた式の変形をすることができる。
	5		
	6	第2節 実数 1 実数 2 根号を含む式の計算	第2節 実数 【知識・技能】 ・循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表すことができる。 ・整数でない有理数を小数にすることができる。 ・平方根の意味・性質を理解している。 ・簡単な無理数についての四則計算ができる。 ・絶対値の意味を理解している。 ・分母に根号を含む式において、分母を有理化することができる。 【思考・判断・表現】 ・数を拡張してきた過程を考察することができる。 ・有理数を小数で表すことで有理数の意味について考察することができる。
	7	第3節 1次不等式 1 不等式の基本性質 2 不等式とその解 3 絶対値を含む方程式・不等式	第3節 1次不等式 【知識・技能】 ・不等式の性質を基にして、1次不等式を解くことができる。 ・数量の関係を1次不等式で表すことができる。 ・ $ x $ を含む方程式や不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ・1次不等式の解について、数直線と対比したり、いろいろな数値を代入したりして考察することができる。 ・絶対値記号を含んだ方程式や不等式の扱い方を理解している。
	8		

